

第337回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成29年4月24日(月)午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 7人 出席委員 6人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
山本 健一	委員	原田 健一	委員
大久保千春	委員	田村 明子	委員

会社側出席者

代表取締役会長	室川 治久
代表取締役社長	務台 昭彦
常務取締役 編成担当	須佐 博樹
取締役報道制作局長	平野 真一
執行役員編成局長兼番組審議会事務局長	稲田 裕之
報道制作局制作部長	羽田 朗
報道制作局 合評番組プロデューサー	真木 一仁
事務局	山崎 学
	水野 明子
	吉田康宏

4 議 題

1) 番組合評

「元気一番“生”テレビ」

[放送：平成 29 年 2 月 25 日（土）10:30-11:25]

(説明：番組プロデューサー 真木一仁)

2) 会社報告

① 3 月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

② 講じた措置、公表など定例報告等 (報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要

会社側からは宮城テレビを幹事局として東北 6 県と新潟で生放送する番組で、東日本大震災前以来の放送であった。生中継局として青森と新潟が選定され、新潟の冬の魅力を発信する中継場所としてマリンドリーム能生とし、しっかりとした中継をするべく、当日朝早くからリハーサルを重ねて中継に臨んだ、という説明があった。

(委員の意見)

- 楽しく明るいだけでなく、震災復興に向けての想いを感じながら見た。
- 各地の情報がたくさんあって良かったが、反面たくさん情報が有り過ぎ、情報として物足りない、もっと知りたい情報を得ることが出来なかった。
- 三陸鉄道を興味深く見た。山形のスカイランタンの映像も美しかった。

- 生中継が青森と新潟共に漁港だったので、新潟の独自性が薄くなってしまったのではないか。
- 生中継に向けてしっかりとリハーサルを行ったと説明があったが、生中継ならではのハプニングも番組の面白さのひとつだと思う。
- 生中継とVTR出演のアナウンサーでは視聴者に対して伝えようとする力が違うと感じた。VTRではきれいに伝えている話し方だったが、生中継のアナウンサーは想いをぶつけてきている感じがし、新潟から中継した斎藤アナウンサーは画面に飛び込んでくるようで、非常に良かったと思う。
- 1時間に7県の情報はさすがに詰め込み過ぎだった。
- せっかく東北6県と新潟という枠組みでの放送なのだから、中継とイベント紹介だけでなく、新潟にはこういう文化がある等、もっとチャレンジした企画があっても良かったのではないか。
- 青森八戸の有名な食べ物が全て紹介されていて良かった。
- カメラワークが早く、魚の種類が分からない所があった。文字テロップも大きくて画面をつぶしているような感じがした。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

3月 …… 97件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成29年3月27日)から、昨日(平成29年4月23日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

- 7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置
- 1) 前回第 336 回審議会では、「新潟×長野 一番G e t！ ケンミン生投票 信越ながら…ゴールデンやっちゃいます！！」を審議いただきました。
委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。
 - 2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。
- 8 今回の第 337 回放送番組審議会の公表
- 1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。
 - 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
 - 3) T e N Y ホームページに議事概要を掲載します。
- 9 参考事項（委員への配布資料）
- ・ 3 月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
 - ・ 民間放送新聞（4/3、13 号）

以上